

二六七九番

窓越しに 月おし照りて あしひきの あらし吹
く夜は 君をしそ思ふ

二六八〇番

川千鳥 住む沢の上に 立つ霧の いちしろけむ
な 相言ひそめてば

二六八一番

我が背子が 使ひを待つと 笠も着ず 出でつつ
そ見し 雨の降らくに

二六八二番

韓衣 君に打ち着せ 見まく欲り 恋ひそ暮ら
しし 雨の降る日を